

この度は APHS Scholarship 2023 に選出いただき誠にありがとうございました。
今回の 18th Annual International Congress of the Asia Pacific Hernia Society はマレーシアの離島 ペナン島で開催されました。

前日に成田空港からシンガポール経由で深夜にペナン島入りし、ホテルまで無事にたどり着くことができました。

演題登録・事前参加登録、学会運営等については概ね問題はありませんでした。

一点、事前アップロードしたはずの口演スライドがアップロードされておらず、現地で再アップロードを要したことはアジアらしさを感じる誤算でした。

プログラムとして Meet-the-Expert、Live Surgery, Hernia Symposium まで非常にボリュームが多く、ヘルニアの病態生理から各種術式の方法まで多岐にわたり非常に刺激的な学会となりました。

また、企業展示も本邦で使用できない機材やメッシュも多く各国の違いを学ぶことができ刺激を受けました。

各国のエキスパートの先生方のお話を伺うことと、各国の背景を加味したディスカッションも含め国際学会に欠かせない経験となりました。

ロボット支援下手術も多く広がっているため盛んに議論されており、特に Ro-eTEP での有用性は大きく近い将来本邦でも保険適応となった暁には爆発的な広がりが期待される手技と感じました。

一点残念な点は日程の都合上前日に開催される Pre Congress Workshop に参加できなかったことが唯一悔やまれました。このワークショップも非常に貴重な機会と考え次回参加する際には必ず参加したいと感じる内容でした。

夜は学会主催の Gala Dinner に参加し、多くのヘルニアエキスパートの日本人外科医の先生方とお話する機会を得たことも良い経験で、日本に帰った後も繋がりを大事にしていきたいと思います。

パーティー会場で振る舞われた本場のマレーシア料理は旨辛く、様々な繋がりを含め忘れられない一夜となりました。

また、翌日は「A 10-year cohort study of a case of incarcerated obturator hernia requiring emergency surgery」について口演発表をさせていただいたのですが、座長のバング

ラデシュの教授から突然日本語で質問されたのには驚きました。(伺うと東京大学の肝胆膵外科に10年近く留学されていたとのことで日本語堪能とのことでした。)

最後になりましたが、貴重な経験をさせていただく機会をいただきましたJHS国際委員長の三澤先生、JHS理事長の蜂須賀先生をはじめ関係各位の皆様に深謝いたします。